

2018 年度『卒業研究の研究室説明用紙』

飯 島

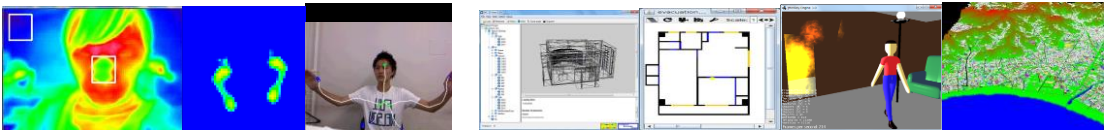
研究室

募集定員

6

名

○ 卒業研究の分野・テーマ・やり方について

研究分野	<ul style="list-style-type: none"> ・ ソフトウェア工学[基礎～応用]+人工知能[応用]⇒エージェント技術 ・ 従来からの「ソフトウェア工学」を核に、従来不十分だった「人との相互作用」に着目した新しい情報システムへの展開を目指します。 ・ ソフトウェア工学や人工知能をはじめとするソフトウェア科学の各手法を使うのは、当然であり必須ですが、目標達成のためには、皆さんが管理工学科の授業で学んだいろいろな手法や心理学などを、幅広く拘りなく使っていきたいと思います。
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ ソフトウェア (エージェント) が、さりげなく気の利いたサービスを実施してくれることで、家庭内・企業内・公共設備など社会全体にわたって、快適な「生活環境」をつくることです。世の中に広まっている言葉でいえば、「ユビキタス(いつでも、どこでも)サービス」、「アンビエント(環境)サービス」の実現といってもよいかもしれません。 ・ エージェントの理想的なあり方を端的に示すキーワードは、自律・分散・協調です。生活環境の中に多数埋め込まれた「エージェント」と呼ばれる自律的なソフトウェアが相互に協調し合っ、環境内にいる人々のために世話を焼いてくれます。エージェントは、できるだけ自己主張せず、余計なお世話をせず、命令される前に動いてくれるのが理想です。
研究プロジェクト	<p>(1) センサで取得した人の行動や周囲の環境の状況から何がやりたいか（意図）を推測し、先回りしてサービスを提供してくれる適応的で以心伝心の「情報家電」「家具」「設備（センサは、RFID タグ, Felica, Web カメラ, 全方位カメラ, モーションキャプチャ, 熱カメラ, 明るさセンサ, 距離センサ, 加速度/方位センサなど）</p>  <p>(2) マルチエージェントシミュレーションなどの手法を用いた「災害避難シミュレーション」やそのための地理空間情報の利用, シミュレーションのためのツールの構築, 三次元可視化</p> <p>(3) (1)+(2): 特に IoT(Internet of Things)センサによるセンシングと避難誘導計画の立案</p> <p>(4) クラウドコンピューティングとセキュリティ(電子カルテ等)</p> <p>(5) プロセスマイニング技術とその応用</p>

○ 輪講の内容・やり方について

輪講	全員集まるのは週 1 回(各回 1~2 コマ程度)。他に研究テーマ別勉強会と個別打合せ。
年間予定	どの研究室もきっとほぼ同じだけど、 夏休み合宿, 卒論発表 (1 月末か 2 月初め頃), その他、 忘年会, いろいろな懇親会(?!) など。(その間に、人によって 学会発表 などが入ります)。

○ 質問・説明に応じられる日程、学生への希望事項、その他 (詳細は下記 WWW でご案内します)

説明会	10/27(金) 12:20-12:50(昼休) 24-614(予定)	11/01(水) 13:30~, 18:10~ 24-614
質問	メールで→ ijijima@ae.keio.ac.jp (件名:[lab]) . または、いつでも 24-602(学生居室)へどうぞ.	
WWW	http://www.ijijima.ae.keio.ac.jp/ を覗いてみてください。適宜、追加情報を掲載します。	

※ 今現在の時点で、**プログラミングが得意か否か**はあまり関係ありません。**やる気があればすぐ身に付きます。**